

3章 スイッチON磯子の進め方

(1) 計画の推進体制	P49
区全域計画の推進体制	P49
地区別計画の推進体制	P51
(2) 計画の振返り	P53
区全域計画	P53
地区別計画	P54
全体振返り(区全域計画・地区別計画)	P55

4章 資料編

(1) 策定の経過	P56
(2) 用語解説	P59
(3) 区全域計画の取組に係る問合せ一覧・ケアプラザの紹介	P60



// こんな取組もあります //

●横浜子育てサポートシステム(通称「子サポ」) ～地域ぐるみでの子育て支援をめざして～	P19
●「いそごでさがそ」でお気に入りを見つけよう	P19
●生活困窮者自立支援制度 ～くらしの困った! を一人で悩まず、相談してみませんか?～	P20
●子どもたちと地域がつながるって、いいね! ～子どもたちが主役となる地域の活動をはぐくむ～	P20
●区民の口の健康を守る!	P23
●磯子の魅力発信ポータルサイト「ISOGO+」を使ってまちに出てみよう	P23
●自治会町内会のデジタル化が進んでいます!	P24
●子ども食堂の取組 ～お腹も心もいっぱい～	P24
●在宅避難のすすめ	P28
●災害時の共助 ～日頃のつながりが、災害時の助けあいに～	P28
●ゆるやかな見守りの輪を広げる ～企業と連携した地域福祉の新たなかたち「いそまる」～	P29
●フードドライブ ～「もったいない」を「ありがとう」へ～	P29

1章 地域福祉保健計画について

(1) 地域福祉保健計画の概要

横浜市の地域福祉保健計画は、住民、事業者、公的機関(区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等)が福祉保健などの地域の課題解決に協働して取り組み、身近なつながり・支えあいの仕組みづくりを進めることで、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりをめざす計画です。

●計画の必要性

地域の中でつながりを持つことは、子育て世代や様々な生活課題を抱える人が、困ったときに相談できる相手ができたり、支援が必要な人がいることに気づいたり、いざというときの支えあい・助けあいに繋がったりと、地域で暮らす人々の安心・安全の土台です。

また、普段からのつながりがあれば、地域課題をみんなで解決するために話しあったり、そのような地域活動に参加することで居場所や役割を見出したりと、人もまちも元気になります。

地域における「つながり」が徐々に希薄化している中で、乳幼児から高齢者までの幅広い世代、外国人、障害のある方等、様々な立場や背景のある人たち誰もが、安心して自分らしく健やかに暮らしていくためには、区民の皆さん、公的機関、関係団体等それぞれがつながりあい、できることを協力しながら福祉保健活動の基盤や仕組みづくりを行う「地域福祉保健計画」はますます必要です。

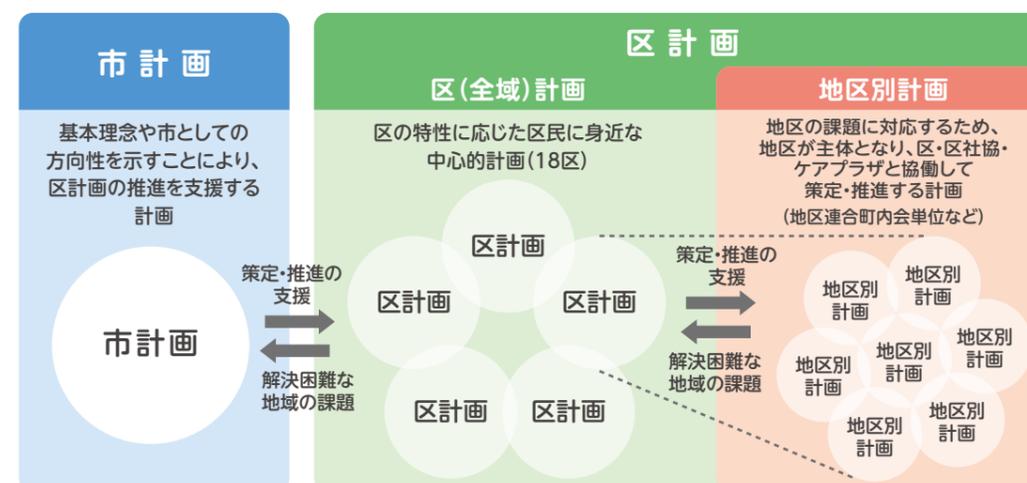
●計画の法的位置づけ

社会福祉法107条で、地域福祉の推進に関する事項を定める計画として、「市町村地域福祉計画」が位置付けられており、また、社会福祉協議会においても、同法109条において、社会福祉活動計画を定めることとなっています。

横浜市では福祉と保健の取組を一体的に進めていくため、横浜市及び18区において、社会福祉協議会と連携して「地域福祉保健計画」を策定しています。

●計画の構成

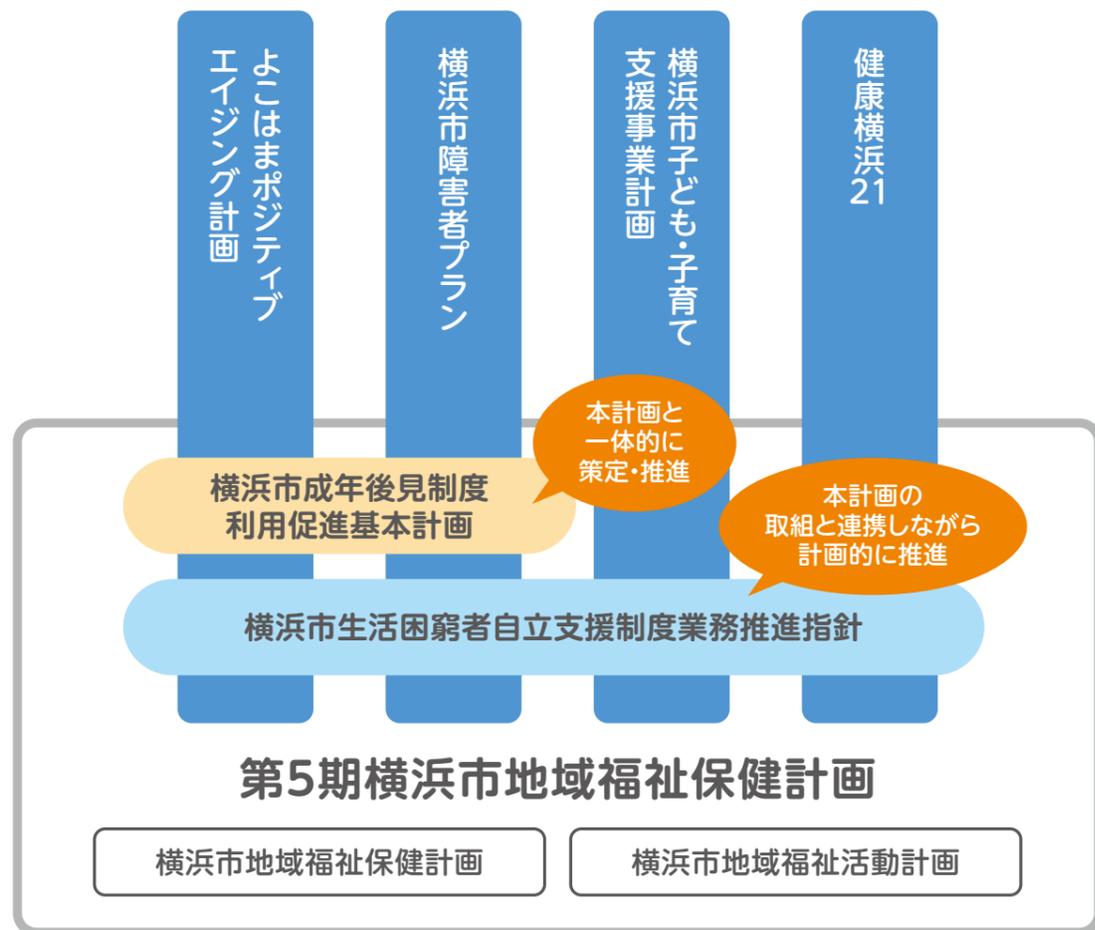
横浜市地域福祉保健計画の方向性をもとに、磯子区地域福祉保健計画を策定しています。



●他の行政計画との関係性

横浜市では、各法を根拠とする高齢・障害・子ども・健康づくり等の分野別計画を策定しています。地域福祉保健計画は、それぞれの分野別計画を「地域」の視点でつなぎ、横断的に展開していく仕組みづくりの役割を果たします。

また、第4期計画からは、権利擁護及び生活困窮に対する取組が、地域福祉保健計画の趣旨と重なるため、一体的に推進しています。

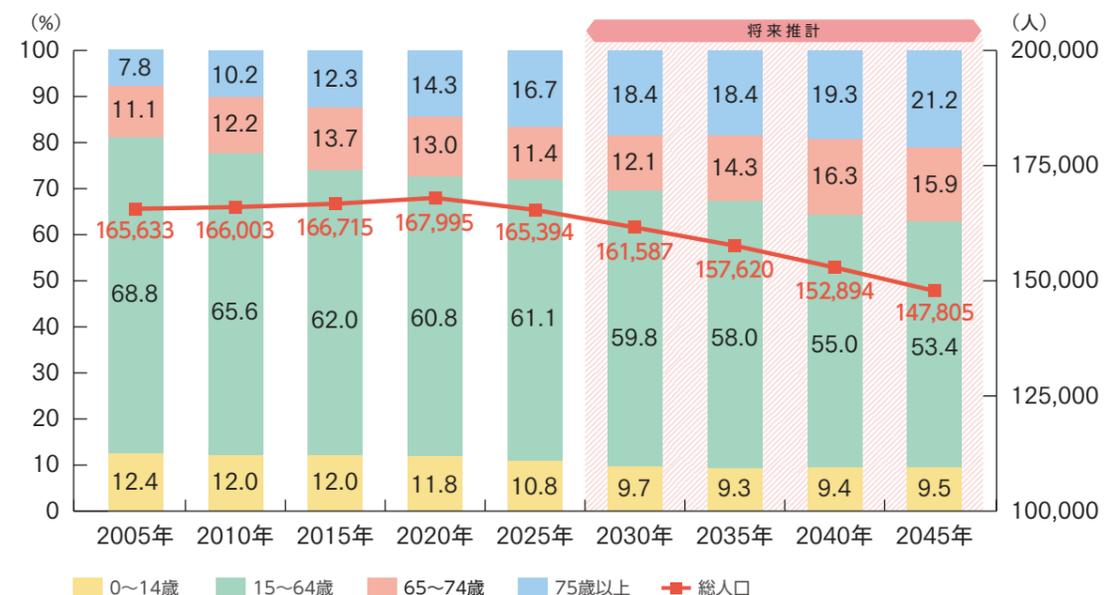


(2) 磯子区の現状

※グラフ内に「横浜市」の記載がないデータはすべて磯子区の数値です。

人口と世帯の推移

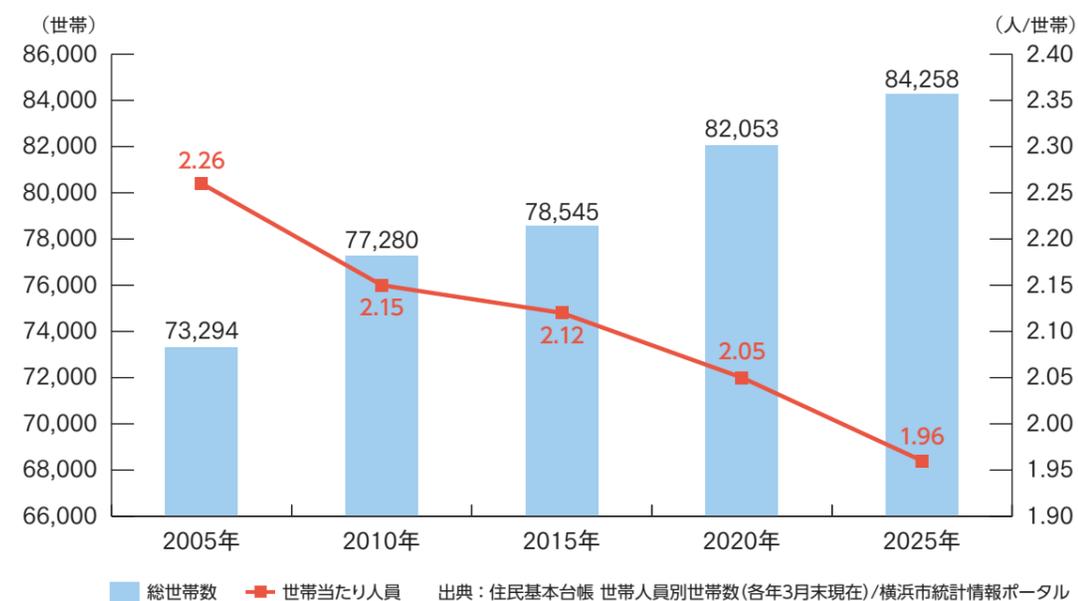
【人口と年齢4区分人口の構成比と将来推計】



出典：2005～2025年：住民基本台帳 年齢別人口（各年3月末現在）/横浜市統計情報ポータル
2030～2045年：横浜市将来推計人口（2024年7月）/横浜市統計情報ポータル

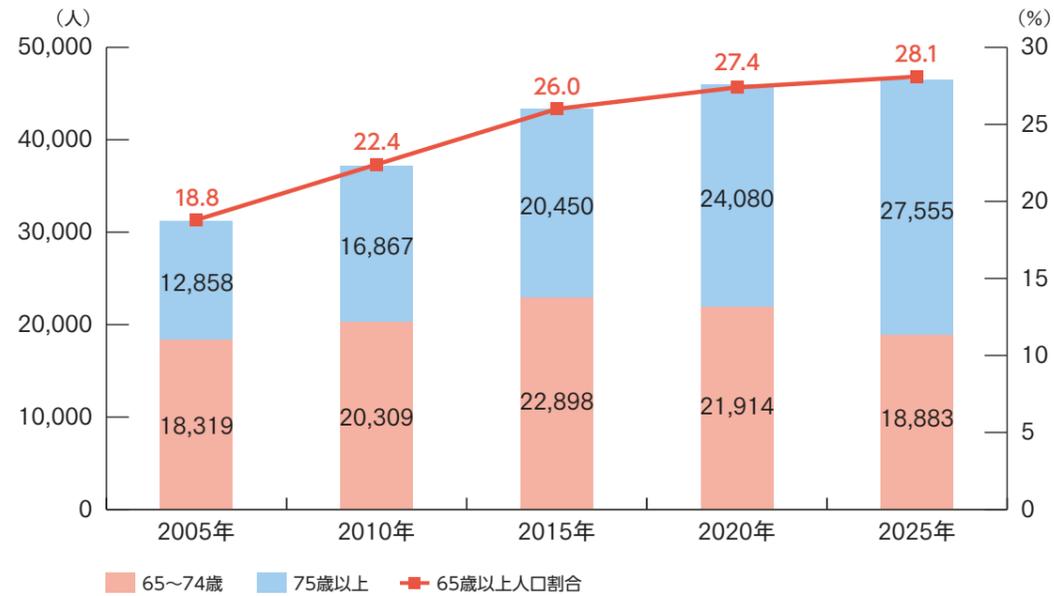
総人口は2020年をピークに減少傾向となり、2045年は2020年と比較して、約2万人減少（12%減）となると推計されています。今後、さらに高齢化が進むと予測されます。

【世帯数と世帯当たりの人員】



世帯当たり人員数が減少する一方、世帯数は増加傾向にあります。

【高齢者人口と高齢化率】



出典：住民基本台帳 年齢別人口(各年3月末現在)/横浜市統計情報ポータル

高齢者は増加しており、中でも75歳以上は一貫して増え続けています。

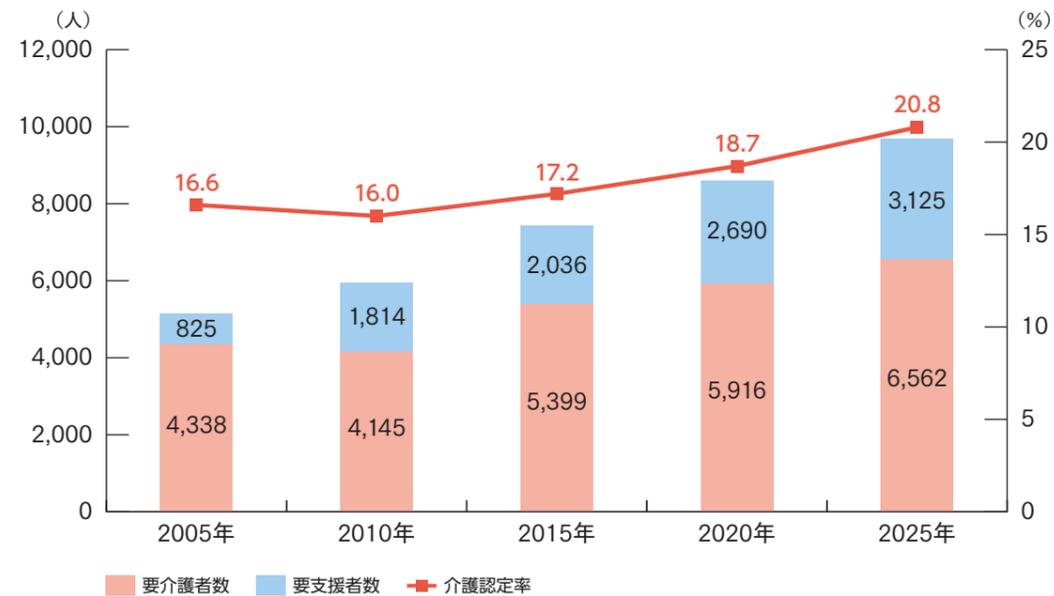
【こども(出生数と出生率)】



出典：出生数:横浜市統計書 福祉保健センター別人口動態(各年年間)/横浜市統計情報ポータル
出生率:合計特殊出生率の推移(各年年間)/横浜市統計情報ポータル

こどもの出生率は、2015年までは上昇傾向でしたが、それ以降は減少しています。

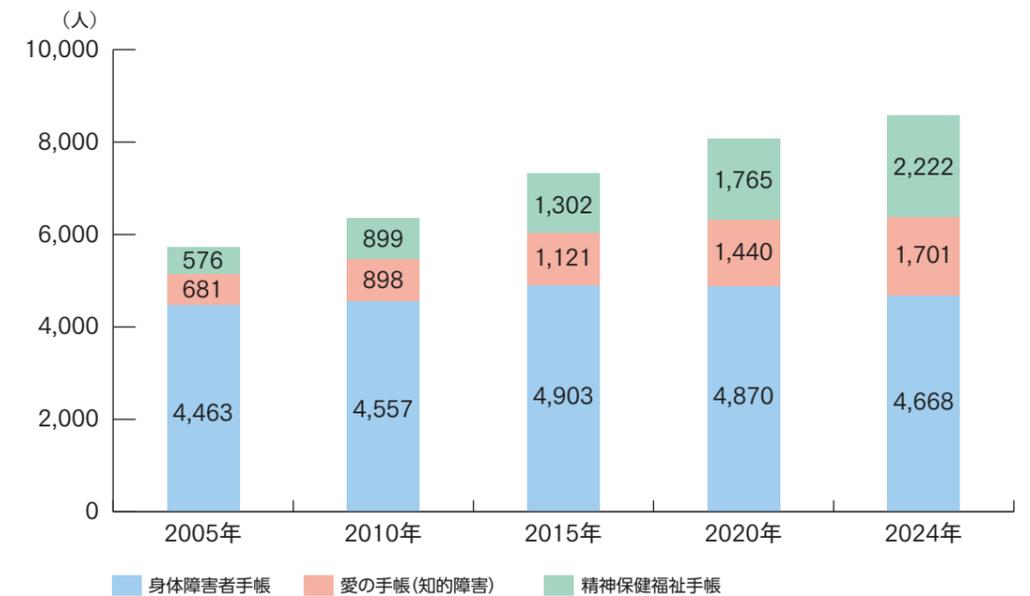
【高齢者(要支援・要介護認定者数)】



出典：横浜市統計書 要介護度別認定状況(各年3月末現在)/横浜市統計情報ポータル

要支援・要介護認定者の合計数は増え続けています。

【障害者(障害者手帳所持者数)】



出典：横浜市統計書 障害者の福祉(各年3月末現在)/横浜市統計情報ポータル

愛の手帳(知的障害)や精神保健福祉手帳の交付が増加しています。

対象者別

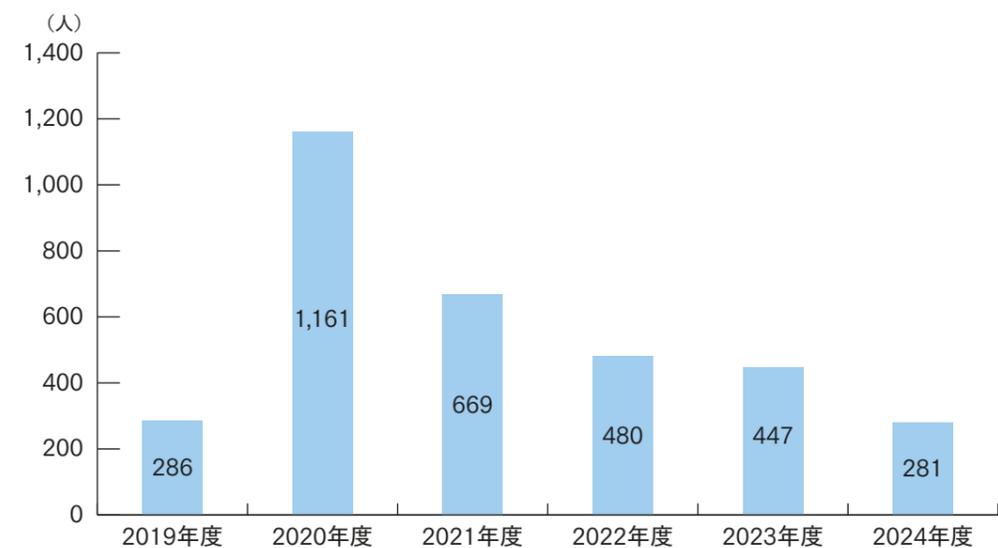
【外国人人口】



出典：住民基本台帳 外国人の人口(各年3月末現在)/横浜市統計情報ポータル

外国人の人口は2015年から増え続けています。

【生活困窮相談件数*】



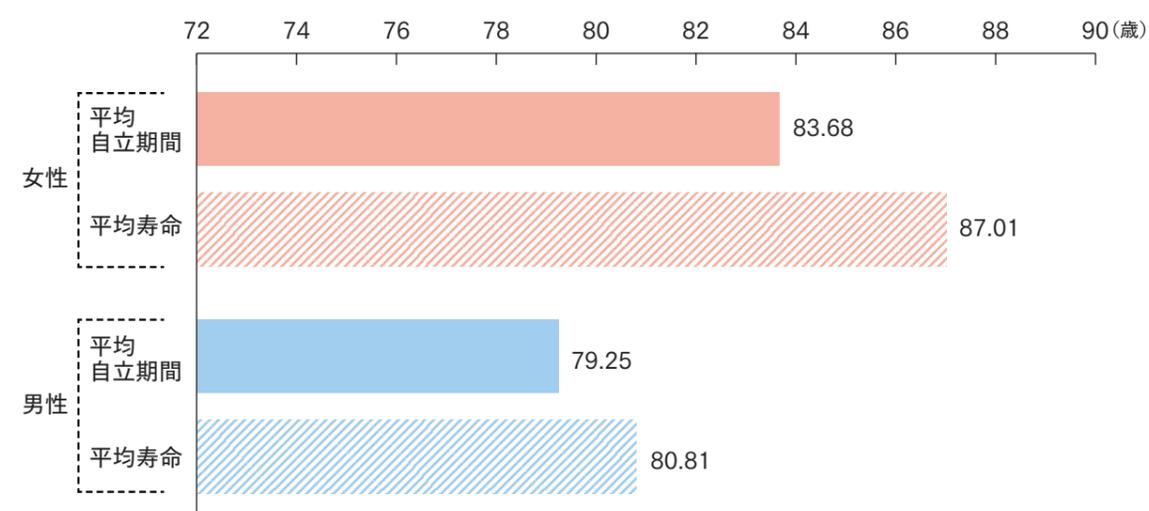
*生活困窮者自立支援制度における自立相談支援事業の新規相談件数

出典：磯子区の福祉と保健衛生(各年度)/磯子区ウェブページ

生活困窮相談件数は、2020年度のコロナ禍で大幅に増加しましたが、その後は減少傾向にあり、現在はコロナ前と同等の水準となっています。

健康

【平均寿命と平均自立期間】

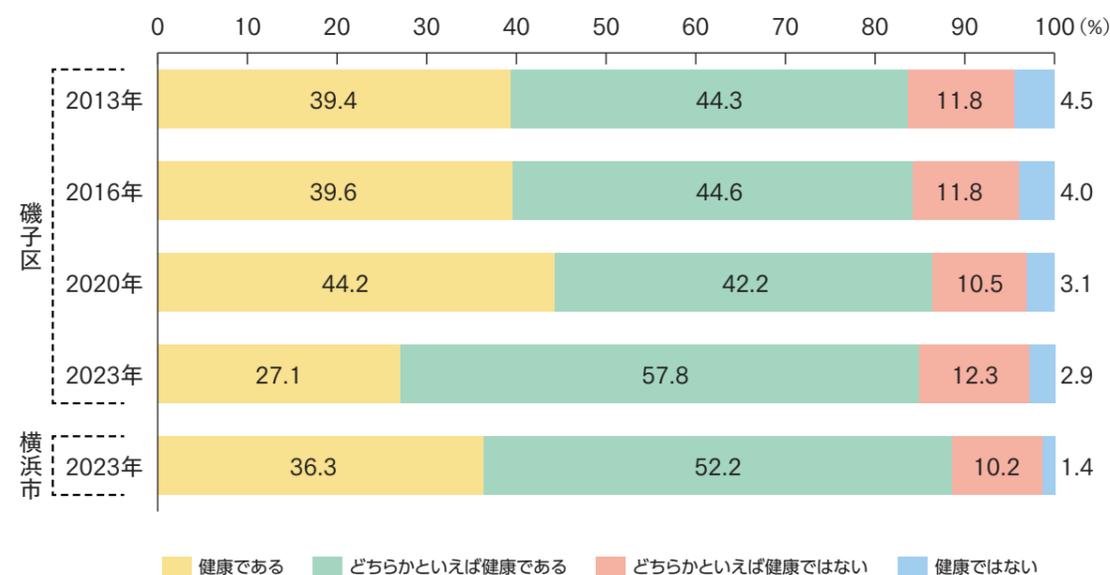


*平均自立期間とは、「日常生活に介護を要しない期間の平均」を指し、介護保険法の要介護認定における「要介護2~5」を介護を要する状態として、市が保有する介護保険データから算出
*平均寿命とは、「生まれてから亡くなるまでの期間」を指し、厚生労働省研究班が公開している「健康寿命算定プログラム」を用いて横浜市独自に算出

出典：横浜市推計(2023年)/市健康福祉局健康推進課

男性は女性に比べ、平均自立期間は4年ほど短くなっています。

【主観的健康観】



出典：健康に関する市民意識調査(2013・2016年：夏、2020・2023年：冬)/横浜市ウェブページ

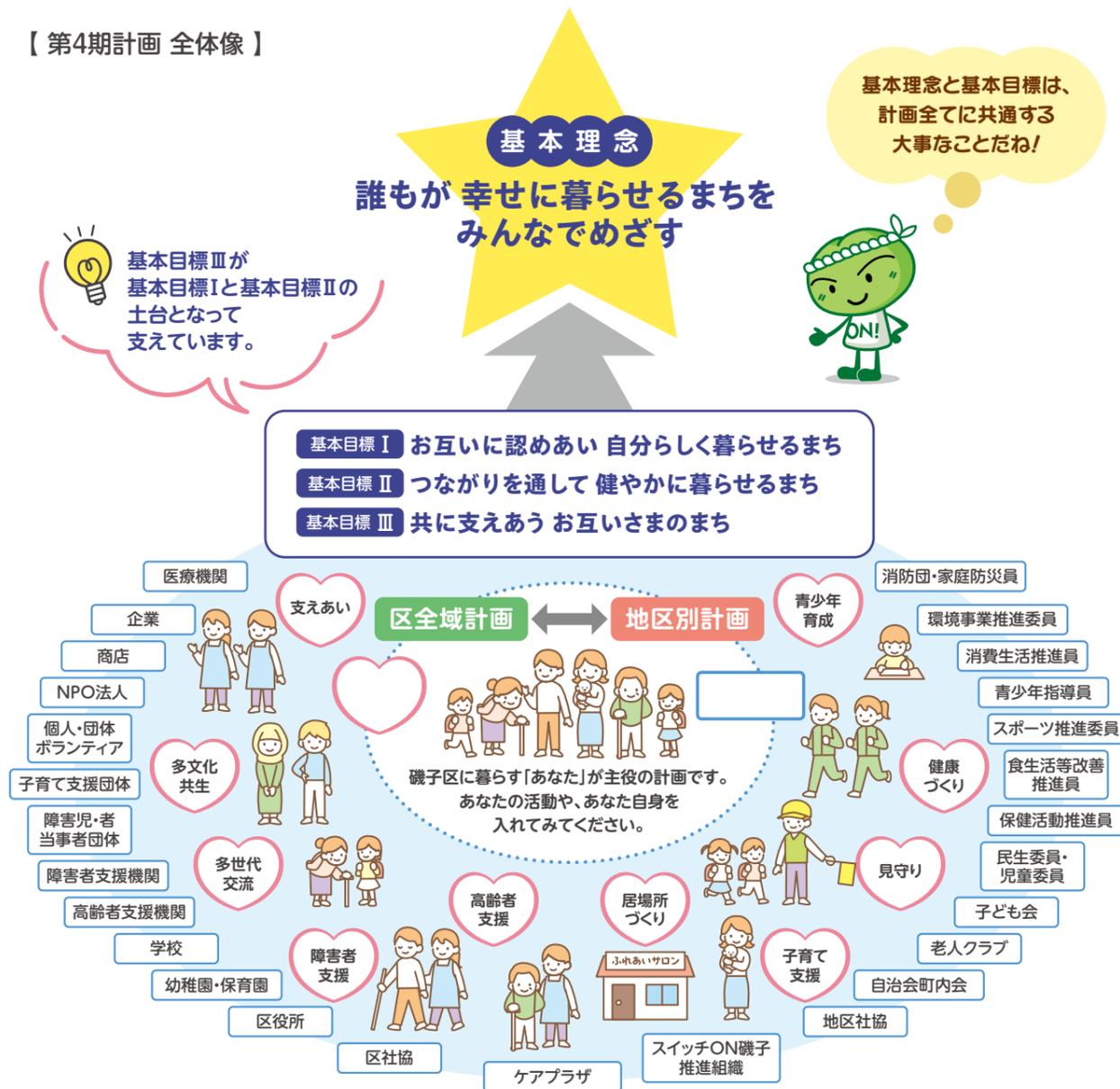
「健康である」「どちらかといえば健康である」を合わせた割合は大きな変化はありませんが、2023年における磯子区は、「健康である」と感じている人の割合がこれまでと比べて低くなっています。

(3) 第4期計画の振り返りと第5期計画の方向性

●第4期計画の振り返り

第4期計画では新たに、基本理念「誰もが幸せに暮らせるまちをみんなでめざす」のもと、3つの基本目標を掲げました。「誰もが」には、年齢・性別・国籍・病気や障害の有無に関わらず、また、赤ちゃんから学童期、働く世代や子育て世代、リタイヤした世代から高齢者等のあらゆるライフサイクルが含まれるという意味を含め、磯子区に暮らす「あなた」が主役の計画という位置づけとしました。

【第4期計画 全体像】



基本理念と基本目標は、
計画全てに共通する
大事なことだね!

基本目標Ⅲが
基本目標Ⅰと基本目標Ⅱの
土台となって
支えています。

- 基本目標Ⅰ お互いに認めあい 自分らしく暮らせるまち
- 基本目標Ⅱ つながりを通して 健やかに暮らせるまち
- 基本目標Ⅲ 共に支えあう お互いさまのまち

磯子区に暮らす「あなた」が主役の計画です。
あなたの活動や、あなた自身を
入れてみてください。

スイッチON磯子は、
誰もが「世代」や「属性」に関わらず、
磯子区に関わるみんなが
取り組める計画だね。

社会状況

新型コロナウイルス感染症の流行により、日常生活に様々な影響・変化がありました。特に、スイッチON磯子の推進に欠かせない地域活動においても、感染防止のため人と人が距離をとることが求められ、休止や変更を余儀なくされました。令和3年度横浜市意識調査では、新型コロナウイルス感染症の影響により地域の人とのつながりが減った割合は、全体で40%を超え、地域の人とのかかわりが少なくなったことが確認できます。

地域の状況

地域で活動する皆さんに第4期計画(令和3~7年度)の活動について「グループインタビュー」と「アンケート」を実施しました(4章 資料編「1 策定の経過」参照)。それらを踏まえ、以下のキーワードにまとめました。

●第5期計画の方向性

キーワード 「認めあう」

- コロナ禍で人や地域とのつながりが希薄になった経験を踏まえ、地域に住むどんな人とも、まずは知り、認めあうことが、つながりづくりの第一歩だということを改めて重視します。
- 第5期横浜市地域福祉保健計画で、「自分らしく暮らす」ためには、「受け入れられている」、「『ここにいていい』と感じられること」が必要だとしています。同じまちの中で一人ひとりの多様性を広く受け入れ認めあうことで、自分らしく暮らす地域社会をめざします。

キーワード 「つながる、健やか」

- 地域の行事などに出ることで、自身と社会のつながりの場になって、居場所や社会貢献、いきがいにつながるというエピソードが多くなりました。つながりを通して心身ともに健やかになることをめざします。

キーワード 「支えあう」

- 近所で会ったときのあいさつや、地域の行事などに出ることでうまれたつながりから、共に支えあう関係や地域活動をする人が増えていくことをめざします。

まずはお互いを知り、
地域の行事などに出ることでつながりが増えて、
ともに支えあう関係性になっていくんだね!